

第4回「世界水フォーラム」参加報告

～「アジアモンスーン地域における川の自然再生」セッションを中心にして～

技術普及部 副参事 土門 晋



1. はじめに

世界水フォーラムは、世界の水問題の解決に向けた具体的な「行動」の目標を提示する場としてこれまで3年に1回、モロッコ、オランダ、日本（京都、大阪、滋賀）で開催されてきた。2003年3月に日本で開催された第3回世界水フォーラムでは約2万4千人の方がフォーラムに参加、水のEXPOには約10万人の方々が参加した。

第4回世界水フォーラムは2006年3月16日（木）～22日（水）、メキシコシティにあるバナメックス国際会議・展示場で開催された。NPO法人日本水フォーラムの速報によれば今回のフォーラムでは140ヶ国から1万9千人の方々が訪れた。
(<http://waterforum.blog57.fc2.com/>)

（財）リバーフロント整備センターは国土交通省に協力し、「水と交通（Water and Transport）」セッション、日中韓3国共同セッションのうち「アジアモンスーン地域における川の自然再生（River Restoration in the Asia Monsoon Region）」セッションの運営及び水のEXPO展示ブースにおけるパネル展示、「日本各地の水循環（The Water Cycle in Japan）」の映像展示及びパンフレット配布を行った。ここでは「アジアモンスーン地域における川の自然再生」セッションについて報告を行う。

2. セッションの概要

「アジアモンスーン地域における川の自然再生」セッションは日中韓3国の日本国土交通省、中国水利部、韓国建設交通部が共同して主催した。プログラムは次の通りである。

- ①各国の河川の自然再生の紹介
【講演1】 PENG Jing氏（中国水利水電科学院）
【講演2】 中村圭吾氏（（独）土木研究所）
【講演3】 Okjoo SOHN氏（韓国建設交通部水資源局）
- ②総合討論
コーディネーター：玉井信行氏（金沢大学教授、東京大学名誉教授）
パネラー：前述の講演者の他
DATUK IR. HJ. KEIZRUL BIN ABDULLAH氏（マレーシア排水かんがい局）
Arthur E Mynett氏（オランダ、UNESCO-IHE）
- ③コーディネーターによる総括

セッションでは日中韓各国の講演者より、河川再生の現状や課題を紹介した上でこれから河川の再生を進めるにあたり必要である事項などが提案された。その後、パネルディスカッションでは上記の講演者にマレーシア及びオランダのパネラーが加わって活

発な議論がなされた。会場からは日本の自然再生推進法、韓国のガイドラインに対する質問の他、メキシコの河川再生についての法規制と将来に関する質問もされ、河川再生に対するメキシコでの関心の高さも伺われた。

なお、セッションの議事概要については国土技術政策総合研究所の梅村幸一郎氏が簡潔にまとめている。



会場の様子



セッション参加者による集合写真

(<http://waterforum.blog57.fc2.com/blog-entry-54.html>)

3. セッションの結論

本セッションの結論として以下の6項目の提案がなされた（部分略）。

- ① 河川環境の劣化が世界的な問題になっている。広域的な問題に対応できる科学技術を用いる必要がある。
- ② 河川の自然再生を行うにあたり、流域全体を単位として考えなければならない。
- ③ アジアモンスーン地域では地域の特徴を含めた適切な技術を用いていかななければならない。
- ④ 文化的なランドスケープが、自然の現状を判断するのに重要な指標である。
- ⑤ 河川のシステムは複雑で、現在のところ、私たちは完全な知識を持ち合わせていない。したがってデータベースを構築し、アジアの河川の再生ネットワークを作ることが大切である。
- ⑥ 河川の自然再生のためのガイドラインを作ること、特にアジアモンスーン地域に相応しいものを作ることが必要である。

2時間という短いセッションであったが、世界中から集った方々が議論し、その結果を参加者の前に示すことができた。今後はこの提案を念頭におき具体的な行動を起こすことが重要である。

本セッションの運営に際しては玉井先生をはじめ講演者の方々、並びに国土交通省他の方々にご指導、ご協力をいただきました。ここに心よりお礼申し上げます。